

第1議案 藤巻の“さと”を育む活動の報告と承認事項

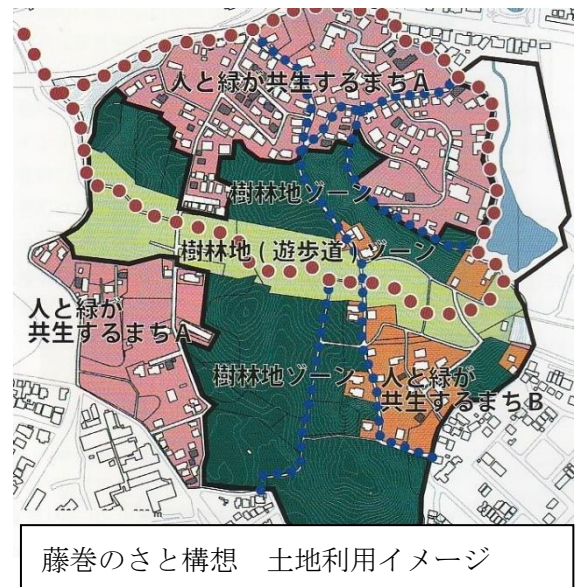
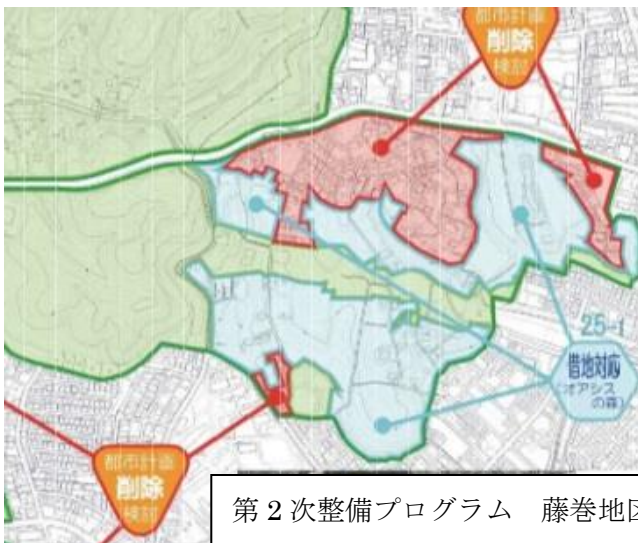
藤巻の“さと”を育む会 事務局長 池田 章一郎

解決すべき課題と平成30年度の活動方針の承認事項

平成29年度の総括と平成30年度の「藤巻の“さと”を育む会」活動は「住宅と緑が共生する“まち”」を構築するための「まちづくり」活動での、現状の課題と今年度の方針は次の通り。

I 平成29年度の特記事項と残った課題

- 1) 平成30年3月26日に、整備プログラム（第2次）が公表され、発表されていたパブリックコメント原案（平成29年12月）から多少変更されて
 - i すべての住宅は、平成40年代の公園事業着手による「立ち退き」の予定は、取り消し
 - ii 藤巻の北部と南西部（藤巻町全住宅数の約7割）は都市計画公園区域から削除される見込み。
この区域では、立ち退き問題は制度的には全面解決（反面、優遇措置は無くなる）
 - iii 南部の大半（全住宅数の約3割）は、樹林地等を借地対応（オアシスの森事業）区域として公園事業を順次進め、しかるべき時期に公園事業に着手するとされているが、具体的な見通しは立っていない。あらためて、これから将来の進め方・計画を検討するということになる。
 - iv 都市計画公園削除予定の区域、借地対応区域ともに多くの問題が残っている。特に借地対応の区域は、進め方に具体性がないため長期間放置される（又は数十年後に問題が再燃する）おそれがあるため、藤巻の借地対応各エリアへの具体的対応検討を行政に促す必要がある。



- 2) 公園緑地（それに準ずる地区）に相応しい生活するために必要な、解決すべきこと
危険木の伐採、空地・空家対策は多少改善されてきたが安心して生活できるレベルには遠い。



特に 新池沿いの崩壊のおそれや、東南部区域の樹林、道路の荒廃（排水、豪雨による水流による土砂流れ）等の諸問題は時間とともに拡大している。「安心して歩ける・散策できる路」や

「最低限の生活道路整備」「下水対策」が必要である。ただ行政に申し入れているだけでは解決しない。

根底には私道問題と、住民の高齢化により自力による対応がますます困難になっている現状があり、整備プログラム（第２次）の借地対応（オアシスの森事業）を取り入れることにより、どこまで対応が可能かも問われる段階である。

II 諸課題への対応方針 特に今年度まず手掛ける事項

「藤巻の“さと”を育む会」は素晴らしい公園緑地の環境・景観を作り上げ、維持し一般市民にも歓迎されるような「住宅と緑が共生する“まち”」を構築することを目標とするが、それには上記の諸課題に取り組むことが前提となる。

1) 住民全体で討議し方向を決定しなければならないこと

- i 道路、森の荒廃、豪雨対応といった住民の強い要望を一般市民にも歓迎される「住宅と緑の共生する“まち”」を実現するための「まちづくり活動」の中でどのように進めていくべきか。
- ii 例えば、借地対応での緑の小路建設も視野に入れた「まちづくり活動」を、大学等の専門家の指導・協力、行政各部門や関係ボランティア団体との協働や協力支援を引き続き得ながら進めていくためにまず行うべきこと。

2) 当面の活動方針の要旨

今年度は当面下記の取り組みを行う、一方ではホームページ等（自治会ホームページ <http://www.fujimaki-cho.nagoya/> が市の助成金で、構築を進めている）を使用して住民各自への活動内容などを意見交換しながら、適当な時期に藤巻の各エリアの将来像を討議する検討会、ワークショップ等を開き具体的な長期的取り組み（住民協定、地区計画等）を検討し確定していく。

取り組みとしてはインフラ問題解決と緑地管理と一緒に検討する（話し合う）官民協働の組織づくりの準備として次のようなことを考えている、

- i 「藤巻のさと構想」で策定した藤巻町の「土地利用ゾーンイメージ」、「緑地管理の基本方針」に沿って、当面は遊歩道ゾーンとその周辺の整備を中心とした活動を着実に続けることとする。
- ii 最初に、住民を中心とした官民協働の緑地管理組織を構築する準備・環境を整える。そのため住民の整備活動の位置づけや具体的な管理について、関係行政部門との話し合いの機会や場を「地域まちづくり」の仕組みの中で、「まちづくり企画課」の協力を得て作っていくことから始める。
- iii その中で、整備プログラム（第２次）による「借地対応」オアシスの森事業のこの区域での早期実現を図り「住宅と緑が共生する“まち”」の実現を図る。具体的には私道や新池の早期借地化を行政に願い、緑道や新池の護岸整備等を官民の協働で推進する。

III 組織の基盤強化

- i ホームページの利便性向上と活用方法の改善。それによる町内外の交流の促進
- ii 財政基盤の確立に向けての具体的対策準備
- iii 事務局メンバー（及び協力者）の新規拡大

IV 平成 29 年度の活動報告

- 1) 藤巻の森さくらまつり 『フラダンス、チェロ演奏、タケノコ狩り』(平成 29 年 4 月 2 日)
- 2) 平成 28 年度自治会総会にて、「続まちづくり検討チーム」事務局長 岡田氏より報告がなされ、異議なく承認された(同 29 年 4 月 30 日)
- 3) 地域まちづくり活動団体の登録(同 5 月 8 日)。
- 4) 平成 28 年度地域まちづくり活動助成報告会(同 5 月 14 日)
- 5) 市役所都市計画課、緑地事業課、まちづくり企画課および、東山総合公園管理課の担当職員と藤巻町役員、高取先生、真弓氏、藤森氏、長谷川氏による顔合せ懇談会(同 6 月 6 日)
- 6) 矢作建設工業(株)の矢田氏、藤森氏を交え「新池」問題について話し合い(同 7 月 8 日)
- 7) 市役所への要望書提出についての話し合い(同 7 月 8 日)
- 8) 東山森づくりの会藤巻班の活動日に、名工大秀島栄三教授、藤森氏にも参加いただき、遊歩道、新池付近の視察後、藤巻町のまちづくり構想について説明(同 7 月 15 日)
- 9) 市役所にて都市計画課、緑地事業課、まちづくり企画課職員に対し「整備プログラム」見直しに対する要望書の提出説明会を行なった(同 7 月 18 日)
- 10) 「天白溪会議」の鈴木会長らに、藤巻町のまちづくり活動について説明(同 7 月 23 日)
- 11) 名古屋都市センターホールで「地域まちづくりシンポジウム」に参加(同 8 月 5 日)
- 12) 市役所まちづくり企画課を訪問、組織基盤強化助成金申請等について相談(同 8 月 9 日)
- 13) アドバイザー葛山稔晃氏による、藤巻町自治会の組織診断(同 8 月 16 日)
- 14) 組織基盤強化助成金申請のプレゼンテーション(60%以上の評価で合格)(同 9 月 9 日)
- 15) 日本建築学会講演会「人口減少時代における地域住民組織によるエリアマネジメント」で岡田前事務局長「期末整備都市計画公園に関わる樹林地の維持管理」講演(同 9 月 16 日)
- 16) (株)シンクポート西尾社長との第 1 回ホームページ作成仕様検討会(同 9 月 22 日)
- 17) 生物多様性センター長谷川氏による、希少植物種生息地の環境測定のための予備調査および本格調査(同 10 月 4 日、10 月 24 日)
- 18) ホームページ作成(予算等)検討会議(同 10 月 11 日)
- 19) 第 2 回ホームページ作成仕様検討会(同 11 月 1 日)
- 20) 整備プログラム(第 2 次)案発表を受けて、市に質問・要望等を行う(同 11 月 21 日)
- 21) 整備プログラム(第 2 次)案に対し、落合氏、藤森氏を交えて検討会(同 11 月 23 日)
- 22) 地域まちづくり勉強会 基調講演:岡部 祥司氏、他(同 12 月 1 日)
- 23) 整備プログラム(第 2 次)案に対する説明会(同 12 月 10 日、12 月 17 日)
- 24) ホームページ作成に関するアドバイザーの指導助言(同 12 月 20 日)
- 25) 要望書提出のための市側との下打ち合わせ会(平成 30 年 1 月 12 日)
- 26) 整備プログラム(第 2 次)案に対する要望書を提出し説明(同 1 月 16 日)
- 27) ホームページ更新講習会(同 1 月 30 日、3 月 17 日)
- 28) 地域まちづくり活動団体交流会(同 2 月 7 日)
- 29) 「藤巻の“さと”を育む会」定期相談会;まちづくり企画課、まちづくりアドバイザー藤森氏(同 3 月 7 日)
- 30) 市役所の 3 課の担当者との来年度へ向けての意見交換会。藤森氏同席(同 3 月 30 日)
- 31) 各月第 2 土曜日:東山森づくりの会 藤巻班の活動日。主に高速道路上の公有地整備

以上